

# 経営と健康

第5回

## 栄光と悲劇の偉人「西郷隆盛」

講演師 一龍斎貞花

コミュニケーションがいかにかに大切であるか、日大事件によって再認識されていると思います。

体育部の多くは勝つことが前提とされ、学校、親、周囲もそれを望む。そこに強権が生まれている例は枚挙にいとまがない。

数字を求める企業の部署にも、警察にもあります。正しく教え、それを理解し実行に移したのが、勝海舟と坂本龍馬は師弟。勝は、土佐藩主山内容堂に、龍馬の脱藩の許しを懇願している。これまでヒーロー龍馬とあって、考え、行動は総て龍馬と描かれている。勿論龍馬の行動力、人を動かす力があつたればこそだが、海舟の指導、薩摩藩家老小松帯刀の協力も大。企業においても、パワハラによる業績はどこかでほころびが生じるもの。日大事件を参考にして、信頼という

絆を大切にして頂きたいと願っています。

二度目の長州征伐に備えるため、武器を購入したいが、幕府と敵対したため、幕府の許可なくして外部との取引が出来ない。そこで長州の桂小五郎、土佐の中岡慎太郎は、

「坂本さん、長州は朝敵の汚名を受け、再度の長州攻撃に直面していて、軍艦や鉄砲が欲しいが、幕府の許可が無ければ取り引き出来ない。薩摩の名義が借りられれば薩摩とのわかかりも解ける。なんとか力を貸していただきたい」「わかった。薩摩藩家老の小松さんに頼んでみよう」  
同盟が結ばれていないから、仲介をしたのが龍馬の貿易商社亀山社中。かくして長州の伊藤俊介（博文）、井上聞多（馨）が、ひそかに帯刀に面

会し購入を依頼。

長州は武器が欲しい。薩摩は米の確保に困っていたので、代金の代わりに米で決済。

中古のゲベル銃三千挺、ピストル四千三百挺、その他合計一万六千挺もの銃を九万二千四百両で購入、約三十五億円、今も昔も軍備には金が掛かる。

薩摩の船で、長崎から長州の港まで届けたので、薩摩を敵対していた長州の態度ががらりと変わります。

更に薩摩の名義で長州の軍艦をグラバーより購入してやる。

グラバーは、小松だけでなく土佐の岩崎弥太郎と、土佐の産物である樟脳を、汽船その他と交換するなど活発な取引。グラバーはこの樟脳を西欧に売ってまた大儲けするなど、大変な商社マン。

グラバーと丸山の芸者との結婚式

パーティーに日本人でただ一人招かれたのが岩崎。同じ土佐人ですが、政治面にも取り組む龍馬に対し、地下浪人から取り立てられ、政治より商いに力を注ぐ弥太郎。お互い認めながらも、決して仲は良くなかったようです。

グラバー邸は世界遺産となり、観光の恩恵を得ています。

### 薩長同盟成立

第一回の同盟会議は、お互い面子にこだわり決裂。龍馬は、桂や西郷を説得。小松・西郷の依頼を受けた坂本は下関へ行き、桂、高杉晋作と会談。この時、高杉から、「護身用に持っているといい、君に進呈しよう」と、香港で購入したピストルを買い

ます。

明けて慶応二年一月十八日、京都小松の屋敷で、国家老桂久武、西郷、大久保一蔵（利通）、島津伊勢ら七名。

長州は、桂小五郎（木戸）、品川弥二郎、三好軍太郎。品川は、以前薩摩のために敗北を喫しているので薩摩嫌いでしたが、この会談の折小松の指示で三人を大歓待。すっかり考えを変えた品川は薩長同盟に賛成。接待の効果大。接待は云々されますが、時と場合、相手によっては必要かもしれません。接待費も税法上認められていますね。但し官公庁関係接待はアウトですからご注意ください。先日元官僚がTV出演し、「接待は昼間から一日三カ所お土産の中に現金。ノーパンしゃぶしゃぶ官官接待以後禁止された。天下りで一年ずつ退職金貰って、次々と渡り五億円稼いだ先輩も。仕事もやることがなく、たまに省庁の上役につながるだけ」と。企業の中にはそれでも必要と就任して頂くんでしょうが、改ざんも無罪。八億二千万円もの国有財産損失させてもです。退職金減額されても五千万円近く。ほとぼりがさめればご苦労さんでしたときつと天下りされる

ることでしょう。民間の改ざんは有罪。日本のものづくりは堅持してほしいのは無論ですが、官と民では大変な違い。くれぐれもご注意ください。私

は国民年金と六年間の会社勤務で、年金受給額月七万六千円。ここから介護保険料九千円、後期高齢者医療保険料二万七千円引かれ、手取り月に四万六千二百円。国民年金で支払額が少ないとはいえ、お小遣い分だけ、どうしましょう。

横道にそれましたが、寄席では引き言と云って、お客様に納得、お楽しみ頂く大切な要素です。営業でも単刀直入だけでなく、時には時事や、相手の趣味の話題も大切な要素のはず。

小松の屋敷における話し合いで薩長同盟成立。坂本は出席していないので桂が同盟成立の手紙を送ります。報せを受け、龍馬と三吉慎蔵が寺田屋で祝杯を上げ布団に入った真夜中、風呂に入ったお竜が騒がしい外の様子に、風呂から裸のまま飛び出し、二人を叩き起こし龍馬はピストルのお陰で危ういところを逃れたものの、腕を斬られなんとか薩摩屋敷へと逃げ込み、報せを

聞くや西郷は兵を率いて駆けつけ、小松、桂その他続々と見舞いに。伏見におくより京都の方が安全と、二本松の薩摩屋敷へ。お竜が甲斐甲斐しく傷の手当てをする。半月ほどで大分回復。

小松が、

「霧島に傷によく効く塩浸温泉がある。そこで湯治しませんか、お竜さんも一緒に、のう西郷さん」

「それがいい、小松家老と大坂から船で一緒に行きましょう」

「それは願ってもないこと、連れて行って下さい」

途中長崎に寄り、龍馬はお竜を連れて長崎見物。この時に写した怪我をした右手を懐に入れた写真が有名です。やがて船は鹿児島錦江湾へ。煙を吐く桜島にお竜は大はしゃぎ。日本最初の新婚旅行と言われているが、それ以前に帯刀とお千賀は結婚すると霧島温泉に旅行しています。龍馬夫妻は塩浸温泉へ湯治に。

慶応二年、幕府の第二次長州征伐勃

発。薩摩に出陣命令が出されるも、薩長同盟から出陣せず。幕府十万人に対し、長州はわずか四千。長州は幕府打倒に一丸となり新鋭の西洋式軍備を整え、高杉晋作、大村益次郎指揮の下各地で一進一退の攻防を繰り返しておりましたが、将軍家茂が病死したため、幕府軍は撤退し、長州の勝利となり、幕府の権威は衰える一方。

その後龍馬はお竜と別れて、越前の松平春嶽に拜謁して京都へ戻り、慶応三年十一月十五日、中岡慎太郎と会談中刺客に襲われ二人共殺害されたのでございました。龍馬三十三歳の誕生日当日のこと。一体誰が殺害したのか謎ともされていますが、西郷が暗殺の手引きをしたとも言われます。その訳は、次号のお楽しみ。ポポンポン。

